

二代目叫児楼

- 物件名：二代目叫児楼（喫茶・軽食）
 - 住所：稲穂2-17-17
 - 電話：27-3006（090-3893-7677）
 - 所有者：奥村良子
 - 運営者：菅原康晃
 - 主任と人員：1人
 - 建物履歴：
- | | | |
|-------|--------|---------------|
| 大正4年頃 | 田居呉服店蔵 | ＜『小樽の歴史的建造物』＞ |
| 昭和元年 | 奥村質店蔵 | ＜奥村良子氏取材＞ |
| 昭和48年 | 奥村金融蔵 | ＜奥村良子氏取材＞ |
| 昭和50年 | 叫児楼 | ＜佐々木一夫氏取材＞ |
| 平成17年 | 二代目叫児楼 | ＜菅原康晃氏取材＞ |

■外観

基本的に外観は手を加えず蔦を這わしている。

■内観

①漆喰壁

内装の漆喰壁はそのまま残し、防寒のためにラワン材に何十回もオイルステンを塗り壁材としている。半地下の壁は横組、1階は縦組、2階は腰板に石壁など、蔵の持つ重厚さを失わないように工夫。

②三層修復

半地下と1階、1階と2階の仕切りが板1枚の蔵だったことから、フローリング+絨毯+ゴムを緩衝材として使用し、防音性と密封性を確保。

③階段

蔵には梯子しかなかったので、三層をつなぐ階段を設置。

④地下漏水防止

半地下床から浸水防止のため、地下を1m以上深く掘り外部に逃がしている。

⑤結露

瓦屋根の修復では追いつかずトタン屋根に修復。

⑥開口部

明かり取り、換気口の他に、FFストーブやクーラー用に開口部を設置。しかし石蔵の持つ密閉性もあり、外気を取り込む開口部も設置。

⑦音響

BGMにブルースを流していたが、ブルース好きがスピーカーの中で聴いているような臨場感があると評価。

⑧厨房

厨房は水を多用することから、FRPで囲い完全防水できるようにしている。

■内容

昭和50年当時は「これはいったい何だ？」と誰もが不思議に思い、「喫茶店なら一度入ってみよう」と好奇心の一元客を呼び込んだ。次第にブルースファンが増え、叫児楼独自のスパゲッティファンも増え、極めつけは「小樽運河保存運動の若者部隊の巣窟」となっていく。

■コンセプト

初代叫児楼閉店を聞きつけ、叫児楼に憧れていた菅原康晃氏が継承を申し出て現在に至る。菅原氏は継承もままならないほどの重さを感じながらも、徐々に経営改善をしている。

■客層

現在は30～50代の女性の二人連れが60%以上、全体の40%が観光客で、小樽らしいシュールな空間を楽しんでいる。



外観

ほんのり照明の
店内



2階店内と石壁



1階カウンター



1階から2階を望む



階段踊り場空間



梁の補強